

令和3年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会 開催報告

- 趣旨** 本研修会は、標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する講演を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** (1) 地域学校協働活動関係者：地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、ボランティア等
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
(3) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者
(4) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
- 日時** 令和4年1月20日（木） 13:30～16:00
- 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
★参加対象者には、できる限りオンライン（Zoom）による参加を依頼。
- 内容**
 - 事例発表：湖南省立甲西北中学校
発表者：打田 マヤ 氏（甲西北中学校 教頭）
湯室 美世子 氏（甲西北中学校 地域学校協働活動推進員）
 - 講演
演題：「地域と学校をつなぐ持続可能な体制づくりに望むもの」
講師：谷口 茂雄 氏（湖南省 前教育長）
- 参加者数** 96名（来場5名、オンライン91名）が参加

8 講演・事例発表の概要

事例発表では、まず、湖南省立甲西北中学校での地域学校協働活動を中心とした取組を発表された。その中で、学校支援員や地域ささえあい推進員などの多くの地域の方とのつながりながら様々な活動していくボランティア部を紹介された。



生徒が活躍する居場所や見守り支援する地域の方々を発掘し、学校と地域をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の重要性を、具体的な事例を挙げて、ご説明いただいた。

また、その取組により、地域と学校がお互いに必要としあう好循環が生まれ、生徒は自己肯定感を持つことで「大人主導の活動からの脱却」して主体的に行動するという大きな効果につながることを伝えられた。

講演では、まず湖南省市における体制づくりをもとに、子どもたちが自尊感情をもって成長していくために地域・学校・家庭がつながる必要があることを説明いただいた。さらに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の目的、地域学校協働活動との関係性とその教育効果について確認していただき、持続可能なしくみづくりのための学校・家庭・地域の役割分担や、研修や意思疎通の機会の重要性について御教示いただいた。



9 参加者のアンケートより

- ・湖南省市立甲西北中学校の実践発表では、子どもたち主体で活動する姿、アイデアなど具体的な例が聞けて勉強になりました。
- ・子どもたちが主体となって行動できるしかけにすることで、学校の課題が改善されていく様子がよくわかりました。
- ・事例発表の中で言われた「やることを楽しむ」という視点を忘れず、地域にある教育資源という宝を掘り当てるようにすることが必要だと感じました。
- ・「教育は学校だけで完結しない」という言葉に共感した。本校でも、家庭教育力の支援など、地域と連携しなければ根本的に解決しない課題があり、どうすべきか悩んでいたが、ヒントとなる事例があり参考となった。
- ・いかにして、先生方や地域の方がトップダウンとして捉えるものではなく、自分たちで作り上げていくものという意識をつくっていくかということが大切であることをあらためて気づきました。
- ・地域と学校の繋がり強化によって、子どもたちを見守るネットワークができ、その中で学校に足の向かない子どもたちにも自己肯定感を感じられるような活動の場ができつつあるというのは素晴らしいことだと思った。
- ・子どもたちの自尊感情を育てるための三本柱、湖南省市の教育方針を各学校で張り出されたことをお聞きし、私もまさにそうしたことが必要だと考えていたので、その実践・成果について学ぶことができ大変勉強になりました。

